

第2回津別町議会定例会『行政報告』（追加）

ただいま発言のお許しをいただきましたので、3月定例会の再開にあたり行政報告を追加させていただきます。

はじめに、誠に残念な報告ではありますが、去る2月28日、津別町自治功労者 元津別町助役 佃繁男様のご逝去されました。故人は、昭和20年9月に本町役場に奉職し、民生部長などを経て、昭和50年2月に助役に選任され1期4年を務められました。その後、監査委員を3期12年の永きにわたり務められ、本町の自治振興に多大なご貢献をいただきました。生前中の数々のご功績に対し、衷心より敬意と感謝を申し上げ、安らかなるご冥福をお祈り申し上げる次第であります。

次に、議会議事堂及び林業研修会館の耐震診断結果についてであります。昨年9月開催の第5回定例会において所要額の補正をいただき、調査を実施していました耐震診断結果の概要が、3月14日、委託先業者から報告されました。

それによりますと、鉄筋コンクリート造2階建ての議会議事堂は、耐震性の目標値である構造耐震判定指標0.675に対し、2階は0.739で目標値を満たしているものの、1階は0.413で目標値

以下の結果となりました。

また、鉄骨造2階建ての林業研修会館は、構造耐震判定指標0.75に対し、1階・2階とも0.105で目標値以下の結果となり、両建物とも耐震性が確保されていないことが判明し、特に林業研修会館の数値は極めて低いものでありました。

耐震性がない主な理由としましては、議会議事堂は、1階車庫周辺が柱のみで壁がないことから建物全体のバランスが悪くねじれに弱く、林業研修会館につきましては、壁、2階床、天井など建物全体に耐震性がないことによるものであります。

耐震性を確保するための改修工事につきましては、議会議事堂は、主に1階の車庫周辺の耐震壁と屋根部に鉄骨ブレースの設置と、2階議場の天井落下防止工事が必要であり、概算工事費は補強工事2億1千3百万円、電気設備工事及び機械設備工事が1億4千7百万円で計3億6千万円となります。

また、林業研修会館は、柱と屋根以外は補強工事が必要であり、仮設の施設を含め概算費用は3億3千4百万円、電気設備工事及び機械設備工事が7千1百万円で計4億5百万円となります。工事期間につきましてはそれぞれ約1年を要し、期間中議会議事堂の利用には影響がないものの、林業研修会館の利用はできないことになり

ます。

議会議事堂は昭和48年に建築され築44年が経過し、林業研修会館は昭和55年に建築され築37年を経過しており、どちらも耐用年数は残っていますが、今回の結果を踏まえ取り壊すか、補強工事を行うかにつきましては、今後議会と協議しながら対応して参る考えであります。

次に、北海道新聞網走地区会との地域見守り活動に関する協定についてであります。3月16日、北海道新聞網走地区会の岩原 繁会長と大東新聞販売所の藤田 浩代表が来庁し、北海道新聞網走地区会との地域見守り活動に関する協定を締結しました。町内での北海道新聞の購読数は1,150部で、販売所従業員が業務中において高齢者からの支援の求めや異変を発見した場合、町など関係機関に連絡をいただく協定となっております。

今後も、高齢者が住みなれた地域で安心して暮らせる環境づくりを進めて参ります。

以上、行政報告とさせていただきます。